

中学校統一テスト（チャレンジテスト）

A氏【教員出身】に対して（2013年6月）

教育長も参加する庁内会議でA氏は「統一テストを年複数回実施することは教育現場として困難であるし、府の予算の関係からしても困難である。」という趣旨を発言。



教育長は翌日A氏を呼び出し40人の前で叱責。「組合の代表みたいな人が何で。。。(A氏の役職)をやっているのですか。」「人を刺しに来るときは、刺され返されることを考えてからやらないと。」「先生によくいるんですよ、こういう人、自分で責任をとらないんですよ。」「次にこういうことがあったら、教育センターで研修してもらったらいいい。」



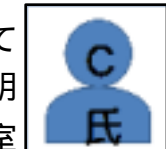
評価育成システム（人事評価制度）

C氏に対して（2013年5月~8月）

5月の教育長に対する説明でC氏が「相対評価については、職員は誰も適切であるとは思っていません。」と説明したのに対し、教育長は「信用できない。」とC氏に退室を命じる。



7月の7~8名が出席した会議で教育長はC氏に対し「プロレスで言えば、『ノーノーノー』と言いながら、見えないところで凶器を持って攻撃しますよ。あらゆる手段を使ってね。」という趣旨を発言。さらに8月の10名が出席した会議でC氏に対し「精神構造の鑑定を受けないといけませんよ。」との趣旨の発言。同席職員が不適切と指摘したが撤回せず。



フォニックス教育導入（小学校英語）

D氏【元高校英語教員・教育長推薦で英語教育改革プロジェクトリーダー就任】に対して（2013年11月~翌年2月）

11月の5名が出席する会議で教育長はD氏に対し「Dさんから小学校に関わる3.6.5日x6か月の計画が出てこない。」と3時間にわたり発言（D氏は罵倒されたと感じた）。同様に1月の数名が出席する会議でも2~3時間。さらに2月の会議では「今後Dさんが仕事を続けるべきかどうかの聴聞委員会を開きます。」等と約3時間発言したうえでD氏に反省文としてのレポート提出を指示。翌日提出すると「レポートに鑑文がないから失礼である。ですます調の文章でないから失礼である。反省のチャンスを与えているのに尊大で失礼である。自分がこれだけの時間を使ってDさんに反省のチャンスを与えているのにそれに対する感謝の言葉がないことが失礼であり、したがって行政官として失格である。訓練を受けていない教員上がりはだから困る。」という趣旨を発言。D氏は体調を崩して翌々日から欠勤し、4月末に退職。



「レポートに鑑文がないから失礼である。ですます調の文章でないから失礼である。反省のチャンスを与えているのに尊大で失礼である。自分がこれだけの時間を使ってDさんに反省のチャンスを与えているのにそれに対する感謝の言葉がないことが失礼であり、したがって行政官として失格である。訓練を受けていない教員上がりはだから困る。」という趣旨を発言。D氏は体調を崩して翌々日から欠勤し、4月末に退職。



大阪府の中原徹教育長が教育委員に高圧的な発言をした問題で、府教委は20日事実関係の調査を依頼していた弁護士ら第三者による委員会が、ほかに府教委職員4人に対する発言につ

いてパワーハラスメント行為があったと認定した報告書を公表しました。（報告書全文は大阪府教委のHPに掲載）
このうちA氏・C氏・D氏に対する発言は左記の通

りですが、いずれも「維新の会」が進める「教育破壊」に関わる事案であることが特徴です。また、言葉の端々に「教員」に対する蔑視・蔑視の態度が現れているのも特徴です。（もう1人の

B氏に対する発言も「Bさんには学校事務長に行ってもらおう。」と露骨に降格を意味する内容です。）
第三者委員はC氏に対する発言は「C氏に対する人権侵害ともいえるべき発言」と

し、他の発言も「パワーハラスメントとして違法と評価すべきものも含まれ、人格の高潔性および公平性の観点からも疑義ある行為が多く認められる」と結論づけています。

教育破壊はチャレンジテストも、人事評価制度も、小学校英語も
教員長のパワーハラで強行される

「集団的自衛権」の行使反対。教え子を再び戦場に送るな。